

令和5年度東部地区道徳教育研究協議会

白岡市立菁莪小学校

【中学年部会】

主 題 名 仲間を守るきまり
内容項目 C 規則の尊重
教 材 名 「よるこびはだれに」
(彩の国の道徳「未来に生きる」)



主体的に考える児童の姿



自分と友達の考えと比べ、
多面的・多角的に考える工夫



学びを深める振り返り

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 導入は児童にとって身近な内容であったため、自分事として考えることができた。教員が提示した内容に対して、児童は、「え？」と反応し、みんなで考える必然性が出た。
- 友達の考えと比べながら、両方の立場について考える活動は効果的であった。多面的・多角的に考える手立てとなっていた。児童は進んで友達の考えを聞き、それを自分の考えと比べることができ、日頃の積み重ねを感じた。
- 友達の考えを聞いて、自分の考えが変わったときに、その理由を聞いたみたい。
- 教材研究を丁寧に行ったことにより、話し合いの時間を十分に確保することができていた。
- 評価の視点に沿って、児童の様子を見取る工夫をしていた。毎時間、着実に意識して取り組んでいることが素晴らしい。



2 指導講評

- 児童は自分の考えを発表したり、ノートに考えを書いたりする力が身に付いている。また、児童同士の人間関係がとてもよく、児童の実態を踏まえた授業であった。
- 導入は、児童にとって身近なものを取り上げていた。児童の反応から、自分事として考えていることが伝わってきた。
- 「動画をネットに載せたい気持ち」と「動画をネットに載せたくない気持ち」について話し合う場面は、深く話し合える部分である。自分とは違う考えの人の所へ行き、考えを聞くことができる活動は有効であった。この場面で ICT の活用も取り入れることができる。
- 教材研究をするときには、発問を児童の立場で答えてみるとよい。児童の反応を考えることは大切である。引き続き、児童の思考の流れを大切に授業づくりを目指してほしい。
- 授業づくりで悩んだときには、本時のねらいに戻り、考えを深めさせたい部分を明確にし、逆算して授業構成をしていくとよい。

